

北薩・伊佐地区埋蔵文化財
分布調査報告書(Ⅲ)

宮之城町・薩摩町

平成5年度

1994年3月

鹿兒島県教育委員会

序 文

北薩・伊佐地区（一部日置地区を含む）の埋蔵文化財分布調査は、平成3年度から9ヶ年計画で県教育委員会が実施している事業です。

平成3年度に串木野市・東市来町・市来町で116ヶ所、平成4年度には樋脇町・東郷町・鶴田町で108ヶ所の遺跡を確認しました。

この地区では、すでに西回り自動車道の建設が具体化し、それに伴う周辺地域の開発や九州新幹線鹿児島ルートの建設、農業基盤整備事業等の推進に、これまでの調査成果が大いに活用されています。

さらにこの他の市町村においても、資料の整備が急がれており、この事業の重要性が高まっています。

本書は、平成5年度に宮之城町と薩摩町で新たに確認された103ヶ所の遺跡の調査結果をとりまとめたものであり、この地域の埋蔵文化財保護のために活用していただければ幸いです。

終わりに、この調査に協力していただいた関係町教育委員会並びに関係者に心から感謝の意を表します。

平成6年3月

鹿児島県教育委員会

教育長 伊牟田 茂 夫

報告書抄録

ふりがな	ほくさつ いさちくまいぞうぶんかざいぶんぶちようさほうこくしよ							
書名	北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅲ)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	鹿児島県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	67							
編著者名	堂込秀人 鶴田静彦							
編集機関	鹿児島県教育委員会							
所在地	〒892 鹿児島県鹿児島市山下町14番50号 TEL 0992-26-8111							
発行年月日	西暦 1994年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みやのじょうちよう 宮之城町 さつまぐんみやのじょうちよう 薩摩郡宮之城町 みやまうえだん 栗山上段遺跡 他		463841	82 162	31° 50' 32° 00'	130° 22' 30" 130° 30'	1993年 7月 5日 7月28日	約1500ha	分布調査
さつまちよう 薩摩町 さつまぐんさつまちよう 薩摩郡薩摩町 きたかた 北方遺跡 他		463868	23 44	31° 50' 32° 00'	130° 30' 130° 37' 30"	1993年 8月 2日 8月12日	約1000ha	分布調査
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
東山上段遺跡 他 81遺跡	散布地	縄文～中世	—————	土器片・青磁片・石器等		表採資料		
北方遺跡 他 22遺跡	散布地	縄文～中世	—————	土器片・青磁片・石器等		表採資料		

例 言

1. 本書は、平成5年度に実施した北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査における「北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅲ)」である。
2. 本年度は、宮之城町、薩摩町の2町を対象とした田畑等の一筆毎の悉皆調査を基本として、必要に応じて聞き取り調査を実施した。
3. 調査に当たっては、各町作成の1万分の1の地形図を利用した。
4. 本報告書掲載の遺跡写真・遺物写真は鶴田が担当し、遺物実測は土器を堂込・石器を鶴田が中心に行った。
5. 執筆分担は、下記のとおりである。

第1章、第2章	13頁～22頁……………	堂込
	30頁～34頁……………	ク
第2章	23頁～29頁……………	鶴田
図 版……………		鶴田
6. 付図中の遺跡地図・地名表は、黒刷りが周知の遺跡を、赤刷りが新発見の遺跡のものである。
7. 編集は、堂込、鶴田が行った。

目 次

序 文	
例 言	
目 次	
第 1 章 調査の経過	7
第 1 節 調査に至るまでの経過	7
第 2 節 調査の組織	7
第 3 節 調査の経過（日誌抄）	7
第 2 章 調査報告	14
第 1 節 宮之城町	14
第 2 節 薩摩町	31

表 目 次

第 1 表 宮之城町遺跡地名表 (1)	9
第 2 表 宮之城町遺跡地名表 (2)	10
第 3 表 宮之城町遺跡地名表 (3)	11
第 4 表 宮之城町遺跡地名表 (4)	12
第 5 表 宮之城町遺跡地名表 (5)	13
第 6 表 薩摩町遺跡地名表 (1)	32

挿 図 目 次

付図 1	宮之城町遺跡地図	
付図 2	薩摩町遺跡地図	
第 1 図	宮之城町内の遺物(1)	16
第 2 図	宮之城町内の遺物(2)	19
第 3 図	宮之城町内の遺物(3)	27
第 4 図	宮之城町内の遺物(4)	28
第 5 図	宮之城町内の遺物(5)	30
第 6 図	薩摩町内の遺物(1)	33

図 版 目 次

図版 1	宮之城町内の遺跡 (27・28・29)	20
図版 2	宮之城町内の遺跡 (30・31・33・34・36・39・41・43)	22
図版 3	宮之城町内の遺跡 (44・45・57・58・59・60・61・62)	25
図版 4	宮之城・薩摩町内の遺跡 (63・64・73・1・3・4)	31
図版 5	宮之城・薩摩町内の遺物(1)	37
図版 6	宮之城・薩摩町内の遺物(2)	38
図版 7	宮之城・薩摩町内の遺物(3)	39

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は、北薩・伊佐地区の4市13町4村(串木野市・阿久根市・出水市・大口市・東市来町・市来町・樋脇町・東郷町・鶴田町・宮之城町・薩摩町・祁答院町・里村・上飯村・鹿島村・高尾野町・長島町・東町・野田町・菱刈町)について埋蔵文化財分布調査を平成3年度から平成11年度にかけて計画した。これは、北薩・伊佐地区の諸開発事業の施行に際して埋蔵文化財保護行政と開発事業との調査を資することを目的とするもので、平成3年度は串木野市・東市来町・市来町を実施し合計で116遺跡を、平成4年度は、樋脇町・東郷町・鶴田町を実施し合計で104遺跡が発見され、周知化されて、活用されている。

調査にあたっては、文化庁全国遺跡分布調査要領(昭和46年4月)に準拠し、埋蔵文化財を中心に原則として田畑一筆毎の悉皆調査を行い、必要に応じてボーリング調査をするなど精密な分布調査を実施するものである。また、結果については分布図・報告書を作成し関係機関に配布する。

平成5年度は、宮之城町と薩摩町の2町を対象にして、平成5年7月5日(月)～8月19日(木)にかけて分布調査を実施した。

第2節 調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会	教育	長	伊牟田 茂夫
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課	課	長	向山 勝貞
調査企画担当者	〃	課長	補佐	梅北 一人
	〃	主任	文化財主事	
		兼埋蔵文化財係長		吉永 和人
調査担当者	〃	文化財主事		堂込 秀人
	鹿児島県埋蔵文化財センター	文化財研究員		鶴田 静彦
調査事務担当者	鹿児島県教育庁文化課	主幹兼企画文化係長		平野 誠一
	〃	主	査	枇杷 雄二

調査にあたっては北薩教育事務所をはじめ、宮之城町教育委員会、薩摩町教育委員会の協力を得た。なお、調査事務所として宮之城町中央公民館の一室を提供していただいた。宮之城町立泊野小学校から遺物の借用などで協力を得た。

第3節 調査経過

調査は、宮之城町を4週間、薩摩町を2週間の予定で、宮之城町から調査を行った。宮之城町社会教育課課長補佐兼文化係長川添俊行・同社会教育指導員井上和夫、薩摩町社会教育課社会教育指導員松下英夫の各氏が調査に終日同行した。8・1豪雨と8・6大水害のため、8月2日・9日・10日が分布調査の実施ができなかった。事前打ち合わせを6月16日(木)・17日(木)に行い、8月19日(木)に事後の残務処理を行なった。

報告書作成作業は、遺物の選別までを調査中に行い、それ以後を県立埋蔵文化財センターで行った。

以下、具体的な調査内容については、一覧表にまとめた。

宮之城町の調査

	分布調査地区	発見遺跡番号	室内作業
7月5日 ～9日	屋地・五日市・田原 木洪・仮屋原・青芝野 池之野・豆漬・時吉 湯田・山越・湯田原 舟木・古城	1～47	町管内図（1/5,000）の整理 遺跡台帳作成 遺物水洗い・注記 発見遺跡の書き込み
7月12日	北原・久富木	48～56	遺物の水洗い・注記
7月13日 ～15日	室内作業		遺物の水洗い・注記 地図への転写
7月19日 ～22日	山崎・荒瀬。二渡 須杭・川口・折小野 白男川・日当瀬 一ツ木・泊野・市野 平川	57～74	遺物の水洗い・注記・選別 遺跡台帳作成 拓本作業 発見遺跡の書き込み
7月26日 ～27日	大角・甫立・上向 柊野	75～84	遺物の水洗い・注記・選別 遺跡台帳作成 拓本作業 発見遺跡の書き込み
7月28日	室内作業		遺物の水洗い・注記・選別 遺跡台帳作成 拓本作業 発見遺跡の書き込み

薩摩町の調査

	分布調査地区	発見遺跡番号	室内作業
8月2日			打ち合わせ・宮之城町遺跡名調査
8月3日 ～5日	北方・園田・尾原 永江・別野・弓之尾 黒鳥・新地・熊田 別府原・梁平・狩宿	1～20	遺物の水洗い・注記・選別 拓本作業 発見遺跡の書き込み
8月11日 ～12日	池山・金山・永野 藤川・段・白猿 駒ヶ段	21・22	遺物の水洗い・注記・選別 拓本作業 発見遺跡の書き込み

遺跡地名表 39 宮之城町

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	果山上段	屋地	台地	縄文, 古墳	土器片, 石鏃, スクレイバー, 磨製石鏃	
2	柞崎	〃	台地	古墳, 中世	成川式土器片 土師器片	
3	諏訪原	〃	台地	古墳	成川式土器片	諏訪原の拡がり
4	三角堀	〃	台地	縄文 古墳～中世	成川式土器片 石鏃, 土師器片 青磁	
5	朽木堀	〃	台地 先端	縄文, 古墳	黒曜石剥片, 成川式土器片	
6	新堀	〃	台地	縄文, 古墳	石鏃, 土器片	
7	宮之城窟跡	〃	山裾	近世	さつま焼	宮之城窟
8	舟木原	舟木	台地 (先端)	縄文(晩) 古墳	石鏃, 土器片, 成川式土器片	
9	原畑	〃	台地 (谷頭)	古墳	成川式土器片	遺物多量採集
10	下原	〃	台地	古墳	成川式土器片	
11	四目ヶ迫	船木字坪井, 木下, 星合堀, 四目ヶ迫	台地	古墳	成川式土器片	
12	坪井		台地	縄文 古墳～中世	石鏃, 黒曜石片 土器片	一部於天城
13	鷹ノ巣	舟木	台地 (谷頭)	古墳	成川式土器片	
14	築詰		台地	縄文, 古墳	黒曜石剥片 成川式土器片	
15	高祖		沖積地 河川敷	縄文, 古墳	黒曜石剥片 成川式土器片	敷布地 包含層残 存状況不良(?)
16	赤道		山斜面	縄文	磨石, 黒曜石 石核, 土器片	
17	萩峯		山斜面	縄文	石鏃, 黒曜石剥片	黒曜石片多量

遺跡地名表 39 宮之城町

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
18	小西		微高地	古墳～中世	成川式土器片 内黒土師片	
19	久木元	田原前目	微高地	縄文、古墳	石鏃、(成川式)土器片、大破片多	
20	広瀬	◇	台地	縄文	スクレイパー 黒曜石剥片、石鏃	
21	前畑	田原前目	微高地	古墳	成川式土器片	
22	東光山	仮屋原	山裾	古墳	成川式土器片	
23	長牟田	青芝野	台地 (谷頭)	縄文(晩期) ～古墳	土器片	
24	猿喰	◇	山地 傾斜面	縄文	土器片 黒曜石剥片	
25	青芝野	◇	山地 傾斜面	古墳	成川式土器片	
26	北川	北川、焼米田、 時吉	台地	弥生～古墳	土器片、黒曜石片 大量	宅地
39-17	時吉城跡	時吉	山	中世城館 古墳	土師器片、青磁 成川式土器片	周知の遺跡
27	高樋口	下湯田	河岸 自然 堤防	古墳	成川式土器片	
28	船津田	湯田	自然 堤防	古墳	成川式土器片	
29	上湯之坊	湯田	河岸 段丘	縄文、弥生 古墳、中世	土器片、青磁片 石鏃	
30	鶴川原	湯田	河岸 段丘	縄文、弥生 古墳、中世	土器片、黒曜石剥 片石器	
31	嶋畑	湯田	河岸 段丘	弥生～古墳	土器片	水流小学校
32	長牟田	湯田	舌状 台地	古墳～中世	成川式土器片 土師器片	

遺跡地名表 39 宮之城町

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
33	石橋段	湯田	台地	古墳	成川式土器片	
34	供養原 A	湯田原		縄文	土器片, 黒曜石剥片	
35	叶山	山越 叶山	台地	縄文～古墳	土器片 黒曜石剥片	
36	十郎佐	◇	台地	縄文～古墳	土器片 黒曜石剥片	
37	供養山	湯田原	舌状台地	縄文～古墳	土器片, 石鏃, 剥片	
38	供養原 B	湯田原	台地	縄文, 古墳	土器片, 石鏃	鶴田町の湯田原と照合。破片多し
39	上五敷	湯田原	台地	縄文, 古墳	土器片, 石鏃	
40	中尾 A	山越	台地 縁辺部	縄文, 古墳	土器片, 石鏃, 石匙 黒曜石剥片	
41	下五敷	◇	台地 (舌状)	古墳	成川式土器片	
42	中尾 B	◇	◇	古墳, 縄文	土器片	
43	鑑	◇	尾根	古墳	成川式土器片	包含層薄し 残存度悪し
44	宮ノ後	五反田	沖積台地	古墳	成川式土器片	
45	北ヶ原	◇	沖積台地	古墳	成川式土器片	
46	米ノ山	山崎	台地 先端	古墳, 旧石器	石核, 成川式土器片, 黒曜石剥片	
47	堂ノ前	◇	台地	古墳	成川式土器片	
48	東下原	北原, 東下原	台地	古墳	成川式土器片	
49	西下原	北原, 赤面, 西下原	台地 谷頭	古墳	成川式土器片	
50	下川内	荒瀬, 赤面, 下川内	台地 先端	縄文, 古墳	土器片, 黒曜石剥片	

遺跡地名表 39 宮之城町

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
51	井手ノ原	久富木	山裾	縄文	黒曜石剥片	
52	竹ノ下	久富木、竹ノ下	微高地	中世	土師器片	
53	丸岡	久富木、北原	丘陵先端	縄文	石鏃、黒曜石剥片 土器片	
54	茶屋ヶ段	〃	丘陵先端	縄文	黒曜石剥片 土器片	
55	山角	山崎	台地	縄文	黒曜石剥片 土器片	
56	内堀	山崎	台地	縄文、古墳	黒曜石剥片	
57	上原	山崎	台地	縄文、古墳 中世	青磁、土器片	56より一段上の台地
58	荒瀬上原	荒瀬	台地 縁辺	縄文、古墳	土器片、黒曜石剥片	
59	前床	荒瀬、前床、川添	河岸段丘	古墳	成川式土器片	
60	上大原	荒瀬	台地 縁辺	縄文、古墳 中世	土器片、黒曜石剥片、土師器片	
61	船渡ノ上	二渡、須杭	自然堤防	縄文、古墳	土器片、黒曜石剥片	
62	川添	二渡、須杭	自然堤防	縄文、古墳	土器片、黒曜石剥片	
63	宮ヶ原	二渡	台地	縄文、古墳	土器片	
64	諏訪下	二渡、諏訪下、宇都	丘陵地	縄文	土器片	諏訪神社
65	湯ノ原	川口	山裾	古墳？	土器片	
66	栗ノ脇	泊野丹ヶ野	微高地	縄文	石鏃、土器片	
67	深田	川口	山裾	古墳	成川式土器片	
68	菖蒲ヶ迫	海老川	微高地	古墳	成川式土器片	
69	母ヶ野	泊野母ヶ野	微高地	縄文、弥生 古墳	土器片、黒曜石剥片	

遺跡地名表 39 宮之城町

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
70	大岩ヶ段	泊野	山裾	縄文, 中世	石鏃, 青磁	山裾で表土があまりない。包含層については、疑問。
71	前田	泊野	微高地	縄文(早) 古墳, 古代	石斧, 土器片(前平), 須恵器片	
72	前原	平川	山裾の 傾斜地	縄文	石鏃	開鑿されており、包含層の残存は疑問。
73	北原	平川北原, 後原, 北原, 柿山	台地	縄文	土器片, 石鏃	
74	悪四郎原	平川北原 悪四郎原, 大原	台地	縄文	土器片, 石鏃	
75	後川	西手	台地	縄文, 古墳	黒曜石片, 土器片	
76	兎田	大角	台地 縁辺	縄文, 古墳	土器片, 石鏃	
77	原口	大角, 原口, 堂ノ前, 椿ノ下	台地 縁辺	古墳	土器片	
78	西ノ原	甫立	台地 縁辺	縄文, 古墳 中世	土器片, 青磁片 石鏃	土器片多数散布 (ゴボウ畑)
79	北園	甫立	台地 縁辺	古墳	成川式土器片	
80	大角原	(甫立入口 バス停周辺)	台地	縄文~古墳	石鏃, 土器片	
81	堂ノ前	上向	台地	縄文, 古墳	石鏃, 土器片	

第2章 調査報告

第1節 宮之城町

宮之城町は、川内川が中央部を貫流し、市街地の北側で穴川と合流し、さらに市街地をすぎて下流に、町の北西から泊野・白男川を経る泊野川、祁答院町方向から久富木川など中小の河川が合流する。これらの侵食谷に広がる水田地帯と、川内川の左岸に顕著なシラス台地の畑地帯が、周辺の町と比較すると、耕地面積が倍する肥沃な耕地を提供している。遺跡は川内川の左岸のシラス台地(図版1)を中心に分布し、81ヶ所の遺跡が新たに確認された。縄文時代と古墳時代の遺跡が多い。

1. 巢山上段遺跡(第1図-1・2)

川内川の左岸、虎居城と谷を隔てて南側の標高73m弱の台地で、虎居城との関係も予測され、南東部分に堀切りがみられる。黒曜石の剥片、剥片石器、古墳時代と思われる土器片、青磁片を採集した。1が青磁片で、2が剥片石器である。縄文時代と古墳時代と中世の3時期の遺物が採集された。

2. 袴崎遺跡(第1図-3・4、図版1)

国道267号線からおしどり橋方向に向かい上がってすぐの標高77mの台地で、北薩蚕業指導所・宮之城農業普及改良所の周辺の畑地に遺物を採集した。成川式の土器片と土師器片を採集した。3は、成川式の甕形土器の口縁部で、4は甕形土器の破片で、内外面ともヘラミガキされている。小型の甕形土器か埴形土器であろう。古墳時代と中世の遺跡であろう。

3. 諏訪原遺跡(第1図-5・6)

平成5年に発掘調査がなされた諏訪原遺跡の近接地で、同一の遺跡として、範囲を広げるものとした。屋地の国道267号線と川内川間の台地の北側部分にあたる。標高は77m程である。諏訪原遺跡の確認調査では、旧石器時代の細石刃核と縄文時代早期の土器、中世の遺物が出土したが、今回は古墳時代と中世の遺物を採集した。5が成川式の甕形土器の突帯部分で、6が青磁の底部である。

4. 三角堀遺跡

国道267号線からおしどり橋へ向かい500ほど入ったところで、袴崎遺跡などのある台地とは、谷を隔てて西側にある標高73m前後台地にある。北側から2筋の小谷が入る谷頭にあたる。遺物は黒曜石の剥片、成川式の土器片、青磁片などが採集された。縄文時代、古墳時代、中世の遺跡である。

5. 榎木堀遺跡

三角堀遺跡が谷頭の位置にあり、榎木堀遺跡は東西を谷とする標高70m強の台地の先端部分にあたる。黒曜石の剥片、成川式の土器片、青磁片などが採集された。縄文時代、古墳時代、中世の遺跡である。

6. 新堀遺跡

榎木堀遺跡・三角堀遺跡からさらに川内川寄りの標高71mの台地で、黒曜石の剥片、成川式の土器片などが採集された。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

7. 宮之城竃跡

現況が藪とゴミ捨て場となっており、詳細は不明である。「宮之城町史」に陶業碑の記録があり、野元堅一郎氏によると、文化2年(1805)に堅野系の分窯として築かれ、民需用の白・黒の雑器を焼いたとされる。ゴミ捨て場として利用されているがけの掘り込みが、焼成室の可能性もあり、灰釉の黒産摩の破片や陶杖が採集され、付近が窯跡であることは間違いないと思われる。

8. 舟木原遺跡(第1図-7~10)

川内川と油田川に挟まれた標高72m弱の台地で、新堀遺跡・朽木堀遺跡・三角堀遺跡と同一台地上にあり、本遺跡が台地南側に位置する。黒曜石の石鏃、縄文時代の土器片、成川式の土器片が採集された。7は貝殻条痕が施され、口縁部に刻目が入る。縄文時代早期の土器である。8は内面がヘラミガキされており、縄文時代晩期の粗製の浅鉢形土器の口縁部と考えられる。9は外面に条痕、内面にヘラミガキで調整され、8と同じく縄文時代晩期の土器片であろう。10は内外面に条痕があり、やはり縄文時代晩期の土器片であろう。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

9. 原畑遺跡(第1図-11・12)

舟木の川内川の左岸の河岸段丘上位置し、標高71mの畑地に位置する。成川式の土器片が多量に散布していた。11は成川式土器の菱形土器の突帯部分で、12が縄文時代晩期の菱形土器の肩部の破片であろう。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

10. 下原遺跡(第1図-13・14)

原畑遺跡の川内川側に位置し一連の遺跡の可能性が高い。標高71mの台地で、古墳時代の遺物を採集したが、遺物量は少ない。13は縄文時代晩期の粗製の浅鉢形土器の口縁部で、14は内外面にハケ目が残る古墳時代の土器片である。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

11. 四目ヶ迫遺跡

川内川に落ちて行く谷の谷頭に位置し、標高72mの台地縁辺部である。古墳時代の成川式の土器片を採集した。古墳時代の遺跡である。

12. 坪井遺跡(第1図-15・16)

南側に緩やかに傾斜して行く標高69mの台地で、一部が中世城跡の於天城跡に含まれる。黒曜石の剥片と石鏃、古墳時代の土器片が採集された。15は石鏃で、16は成川式土器の脚部である。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

13. 鷹ノ巣遺跡

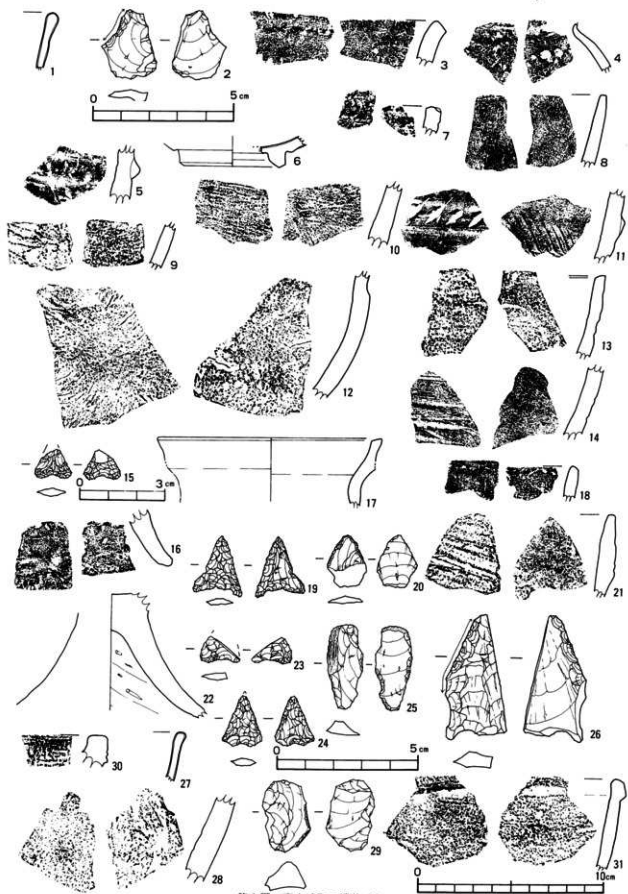
河岸段丘の南側の末端部分で、標高65mの南側にわずかに傾斜するが、末端はガケ状に落ちている。古墳時代の土器片を採集した。古墳時代の遺跡である。

14. 梁詰遺跡(第1図-17)

梁詰橋のある穴川の左岸で、日本特殊陶業(株)鹿児島宮之城工場の入り口付近である。標高37mで、黒曜石の剥片と古墳時代の土器片を採集した。17は須恵器の壺もしくは瓶の口縁部である。縄文時代と古墳時代の遺跡であろう。

15. 高祖遺跡

穴川が蛇行する右岸の梁詰橋の上流部、標高36mの沖積地と思われる一段低くなったところで、冠水することもある場所である。遺物を採集したが、立地としては条件がよくない。黒曜石と土器片を採集した。遺物は縄文時代と古墳時代のものである。



第1図 宮之城町の遺物 (I)

16. 赤道遺跡 (第1図-18)

向江集落の南側の丘陵で標高60m前後の西側傾斜地に位置する。穴川を西に見下ろし萩峯遺跡とは谷を挟んで南北に対峙する。磨石、黒曜石の石核、剥片、土器片を採集した。18は内面にヘラミガキされ、縄文時代晩期の土器片と判断される。縄文時代の遺跡である。

17. 萩峯遺跡 (第1図-19・20)

宮之城町室内温水プールのある丘陵で、室内温水プールの南側に多量の黒曜石と土器片を採集した。標高は63m前後で、西側に緩やかに傾斜している。19・20はいずれも黒曜石製の石鏃で、19は片脚側に挟りがあり、石匙の可能性もある。また細石刃らしい遺物も採集しており、旧石器時代の遺跡の可能性もある。土器片は古墳時代のものが大部分である。縄文時代から古墳時代の遺跡である。

18. 小西遺跡

穴川が蛇行し沖積地を形成している田原豆漬の水田の中に、標高47mの微高地があり、現在畑地として利用されている。成川式の土器片と内黒土師器の破片を採集した。古墳時代と中世の遺跡である。

19. 久木元遺跡 (第1図-21~23)

田原前目の田原橋の右岸側の標高50m弱の微高地で、現状は畑として耕作されている。成川式土器の大きな破片が散布していた。21は縄文時代晩期の甕形土器の口縁部で、22は古墳時代の高坏の脚部、23は黒曜石の石鏃の破片である。縄文時代と古墳時代の遺跡で、特に古墳時代に関しては集落跡のあった可能性がある。

20. 広瀬遺跡 (第1図-24~26)

前目の集落と墓地の間の微高地で、標高53mをはかる。周辺の道路からは1~2m程の段差がある。24は石鏃、25は黒曜石の剥片石器、26は砂岩製のスクレイパーである。黒曜石の剥片がかなり散布している。縄文時代の遺跡である。

21. 前畑遺跡

前目の極楽寺の東側の標高54m弱の微高地で、成川式の土器片を採集した。砂質土と礫の混入から、沖積作用による堆積層を形成している可能性が考えられる。古墳時代の遺跡である。

22. 東光山遺跡 (第1図-28・29)

眼前に南方川を見下ろし、すぐ北西に穴川との合流地点がある。山裾で標高63m前後の西向き斜面である。黒曜石の剥片と成川式の土器片を採集した。27は青磁の破片で、28は内面がケズリ、外面がナデ調整され、古墳時代のものと考えられる。29は黒曜石製の剥片石器である。縄文時代から中世にかけての遺跡である。

23. 長牟田遺跡

青芝野の公民館の東側で標高119m程で、南側の谷との比高差が10m程である。宅地化しているが、小川田川の流れる谷の谷頭にあたる。縄文時代晩期の土器片、成川式の土器片を採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

24. 猿喰遺跡

小川田川の右岸の尾根状の地形を開墾した標高120m弱の畑地で、青芝野集落の南西に位置する。

かなり切り盛りの大きい畑地造成がなされている。縄文時代の土器片を採集した。遺物量は少なく、包含層の残存状況は好ましくないとされる。

25. 青芝野遺跡

青芝野から新生に向かう道路の両側で、尾根に道路が走りその両側の標高150m前後の傾斜面に位置する。成川式の土器片を採集した。古墳時代の遺物である。

26. 北川遺跡

宮之城自動車学校の西側に広がる標高40m～45mの微高地で、時吉城のあった丘陵の西側の部分であろう。遺跡として立地条件がよく、現在宅地として利用されている土地が多い。遺物は土器片と黒曜石の剥片で、遺物が多量に散布していた。土器は弥生時代のものもあり、縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世の遺跡である。

時吉城内遺跡（図版1）

中世山城の時吉城跡で、中央部の平坦部分は畑地として整理されている。

27. 高樋口遺跡（図版1）

下湯田の、川内川の左岸の標高32mの自然堤防上にあり、旧宮之城線の薩摩湯田駅の南西側にあたる。古墳時代の遺跡である。

28. 船津田遺跡（第2図-32、図版1）

湯田の川内川の左岸の標高35m弱の自然堤防上にあり、宅地化が進んでいる。32は成川式の変形土器の破片である。古墳時代の遺跡である。

29・32～43は、川内川が蛇行して、3方を川内川に囲まれている湯田に位置する。鶴田町との町境で、河岸段丘と湯田原台地および台地周辺のシラス台地特有の侵食地形の台地上に遺跡が分布する。

29. 上湯之坊遺跡（第2図-33～36、図版1）

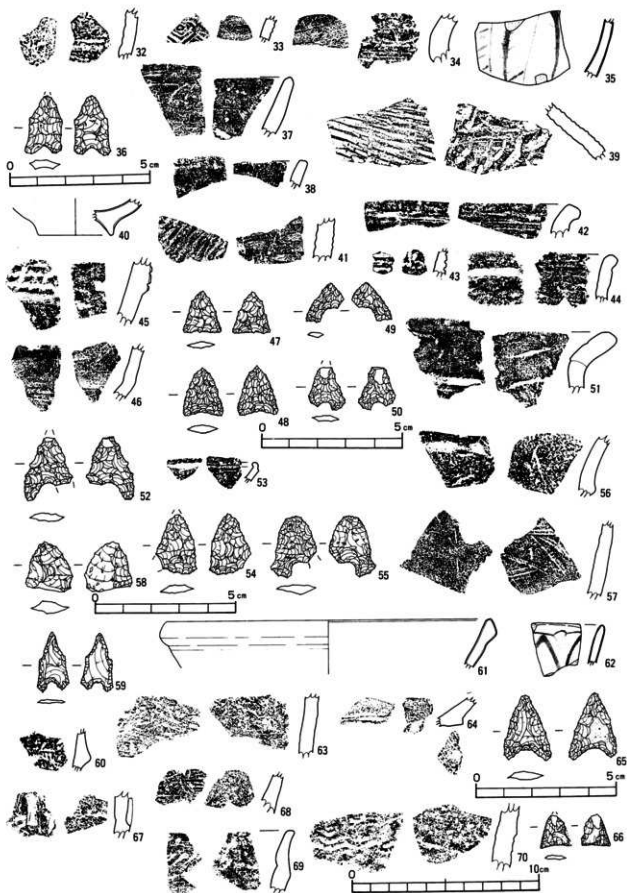
湯田温泉街の東側の台地部分で、標高55m前後の河岸段丘である。33は変形の押型文の手向山式土器で、縄文時代早期の土器片である。34は条痕文土器 35は青磁、36は黒曜石製の石鎌である。このほかにも、特に古墳時代の成川式土器の破片は小破片ながら量的には多かった。縄文時代から中世にかけての複合遺跡の可能性が高い。

30. 鶴川原遺跡（第2図-37～40、図版2）

湯田の川内川の左岸に位置し、九州電力湯田発電所の東側、標高58m前後の台地である。37は縄文時代晩期の粗製土器の口縁部で、38は縄文時代晩期の精製土器の口縁部である。39は外側に平行、内側に同心円のタタキ痕をもつ須恵器である。40は青磁の底部で、高台の端部には軸がかかっている。黒曜石の剥片と縄文土器の細片も採集しており、縄文時代から中世の遺跡である。

31. 鶴畑遺跡（図版2）

湯田馬場の、周囲が水田に囲まれた畑地で、標高40m強の自然堤防上に立地する。流水小学校の周辺である。弥生時代から古墳時代の遺跡である。



第2図 宮之城町の遺物(2)



川内川左岸の台地の状況(2~)



時吉城内遺跡



27. 高樋口遺跡



湯田城遠景



27. 同上



28. 船津田遺跡



29. 上瀬之坊遺跡

32. 長牟田遺跡

宮之城敬老園の正面の南側に突き出した標高55mの舌状の台地で、上湯之坊と谷を隔てて東側に位置する。古墳時代の遺跡である。

33. 石橋段遺跡 (第2図-42、図版2)

鶴田町との東側の町境で、湯田原台地と浅い谷を挟んで北西に位置する。鶴田肉牛肥育センターの南側の標高75mの畑地にひろがる。42は時期不明の土器の口縁部であるが、土師器の可能性が高い。成川式土器の小破片も数点採集した。古墳時代の遺跡である。

34. 供養原A遺跡 (第2図-43・44、図版2)

鶴田町体育館の西側で、体育館と国道267号線との間に位置する。標高85mで、湯田原台地の北辺部分にあたる。43は沈線を数条施すもので、縄文時代の土器である。44は口縁下に沈線を施し、内面には貝殻条痕がある。縄文時代後期の土器である。黒曜石の剥片も採集した。縄文時代の遺跡である。

35. 叶山遺跡

シラス台地の中で、もっとも西側の川内川(湯田温泉)側のシラス台地で、川内川左岸の湯田の水田地帯を見下ろす位置にあたる。縄文時代から古墳時代の遺跡である。

36. 十郎佐遺跡 (第2図-45・46、図版2)

叶山遺跡の南側で、同一台地の中央部付近にあたり、西に水田をもっともよく見下ろせる。標高63mの、国道267号線が鶴田から柏原橋へ降りるところの両側である。45は成川式の壺形土器の胴部突帯で、46は土師器である。黒曜石の剥片も採集しており、縄文時代から古墳時代の遺跡である。

37. 供養山遺跡 (第2図-47~50)

湯田旧塘池の北西、小原の集落の北側の標高63mの台地で、叶山遺跡・十郎佐遺跡のある台地の南側部分である。47~50は石鏃で、48がチャート製で他が黒曜石製である。古墳時代の成川式土器の破片も採集した。縄文時代から古墳時代の遺跡である。

38. 供養原B遺跡 (第2図-51・52)

湯田原の台地の南西部で、南は旧国鉄宮之城線のある比高差40mほどの谷に落ちる。平成4年度の分布調査で確認された鶴田町上原遺跡と同一の遺跡の可能性が高い。土器の破片が多量に採集された。51は土師器であろう。52は黒曜石製の石鏃である。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

39. 上五敷遺跡 (第2図-53~55、図版2)

湯田原台地の西辺部分にあたる。南北両側に小谷が入り込み、西側に舌状にのびていく標高85mの台地である。遺物が多量に散布している。53は縄文時代晩期の黒色研磨土器の口縁部である。54は石匙で、55は石鏃である。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

40. 中尾A遺跡 (第2図-56~59)

叶山遺跡、十郎佐遺跡と谷を挟んで東側の台地で、両側に小谷に挟まれ南北に細長く伸びたシラス台地の付け根部分にあたる。国道267号線の両側に広がり、標高66mである。遺物が多量に散布していた。56は、縄文時代晩期の粗製鉢形土器の肩の屈曲部の破片と思われる。57は古墳時代の成川式土器の破片であろう。58・59は黒曜石製の石鏃で、59は乳白色を呈し、大分県姫島産の黒曜石の可能性が高い。縄文時代と古墳時代の遺跡である。



30. 鶴川原遺跡



31. 輪畑遺跡



33. 石橋段遺跡



34. 供養原A遺跡



36. 十郎佐遺跡



39. 上五敷遺跡



41. 下五敷遺跡



43. 鐘遺跡

41. 下五敷遺跡 (第2図-60、図版2)

湯田原の台地につながる台地であるが、3方に谷が入り込み、北部分がわずかにつながっている。南に突き出した台地の先端部分で、標高70m前後である。60は突帯部分であるが、時期は不明である。その他成川式土器の小破片を採集しており、古墳時代の遺跡であろう。

42. 中尾B遺跡

中尾A遺跡のある台地の南側部分で、湯田旧塘池を南側に見下ろす標高64mの台地に位置する。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

43. 鍔遺跡 (図版2)

湯田原の台地から新・旧塘池の方向に、東西に細長く伸びた標高85mの尾根状の台地に位置する。鶴田町との町境に一部かかる。畑地造成のため包含層の残存状況はよくない。土器片を採集した。古墳時代の遺跡である。

44. 宮ノ後遺跡 (図版3)

五反田川の左岸、神社の東側にある標高65m前後の微高地で、現況は畑地である。沖積台地で、砂質土がおおっている。古墳時代から中世の遺跡である。

45. 北ヶ原遺跡 (第2図-63、図版3)

五反田川の上流で、左岸に位置し、山地から谷部にのびた標高91mの台地である。62は青磁の口縁部である。古墳時代から中世の遺跡である。

46. 米ノ山遺跡

山河集落の南側の標高79mのシラス台地の先端部分である。黒曜石の剥片と、古墳時代の成川式土器の小破片を採集した。細石核の調整剥片とも判断されるものもあり、旧石器の遺跡である可能性がある。縄文時代・古墳時代の遺跡である。

47. 堂ノ前遺跡

松下病院の南側の標高77mのシラス台地で、現況は茶園が多い。古墳時代の成川式土器の破片を採集した。古墳時代の遺跡である。

48. 東下原遺跡 (第2図-63)

北原の荒瀬川の左岸の、東西に長く伸びる標高88mのシラス台地で、入来町の町境の台地である。現在は茶畑と畑地として利用されている。わずかに北側に傾斜している。63は外側に平行タタキ痕を残す須恵器で、この他に成川式土器の破片を採集した。古墳時代の遺跡である。

49. 西下原遺跡

東下原遺跡と同一の台地上にあり、入来町との町境にあたる標高82mの畑地に位置する。東下原遺跡と同様に、古墳時代の遺跡である。かなり平坦な畑地として利用されており、畑地造成がすすんでいるため、遺跡の保存状況はあまり良くないと判断される。

50. 下川内遺跡

入来町との町境で荒瀬川の右岸で西側に突き出した、両側が小谷の標高76mのシラス台地上に位置する。西下原遺跡や東下原遺跡と谷を挟んで北側にある。黒曜石の剥片と成川式土器の土器片を採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

51. 井手ノ原遺跡

川内川支流、久富木川右岸側の標高約50mの山裾に位置し、黒曜石剥片・チップを採集した。縄文時代の遺物の散布地である。

52. 竹ノ下遺跡 (第2図-64)

川内川支流、久富木川左岸側の標高約30mの微高地に立地し、周囲は水田である。64の土師器底部片を採集した。中世の遺物の散布地である。

53. 丸岡遺跡 (第2図-65、66)

標高約70mの丘陵の先端部に位置し、南側には谷を隔てて、東下原遺跡・西下原遺跡・下川内遺跡などが所在する。土器片、黒曜石剥片や65の頁岩製の石鏃、66の黒曜石製の石鏃などを採集した。縄文時代の遺物の散布地である。

54. 茶屋ヶ段遺跡

標高約80mの丘陵先端部の畑地帯に位置し、東側に所在する丸岡遺跡との比高差は約10m程である。土器片及び黒曜石の剥片等を採集した。縄文時代の遺物の散布地である。

55. 山角遺跡

川内川支流、久富木川右岸側の標高約50mの台地に位置し、土器片及び黒曜石の剥片などを採集した。縄文時代の遺物の散布地である。

56. 内堀遺跡

山崎中学校の北側に広がる標高約60mの台地に位置し、黒曜石片及び成川式土器を採集した。縄文時代及び古墳時代遺物の散布地である。

57. 上原遺跡 (第2図-67、68・図版3)

川内川支流、久富木川と餘城川に挟まれた標高約70mの台地に位置する。67はヘラによるやや太め沈線を施すもの、68は貝殻条痕による調整を施すものともに縄文時代の遺物と考えられる。他に成川式土器片や青磁片も採集された。縄文時代、古墳時代及び中世の遺物の散布地である。

なお、山角遺跡、内堀遺跡は上原遺跡と同じ台地のやや下段に位置している。

58. 荒瀬上原遺跡 (図版3)

川内川支流、久富木川と荒瀬川に挟まれた標高約70mの比較的広い台地の縁辺部に位置し、標高20mの牧之峰の山裾にあたる。縄文時代の土器片、黒曜石剥片及び成川式土器片等を採集した。縄文時代及び古墳時代の遺物の散布地である。

59. 前床遺跡 (図版3)

川内川の左岸に形成された標高約20mの河岸段丘に位置する。古墳時代の成川式土器片が採集される古墳時代の遺物の散布地であり、その広がりには東側の集落内へ及び可能性もある。

60. 上大原 (図版3)

前床遺跡を見下ろす標高約30mの台地に位置し、黒曜石剥片・チップ、成川式土器片及び土師器片などを採集した。縄文時代、古墳時代及び古代～中世の遺物の散布地である。

61. 船渡ノ上遺跡 (第2図-69・図版3)

川内川右岸に形成された標高約20mの南北に長い自然堤防上に位置し、現況は住宅と屋敷畑である。69はヘラによる斜めの連続する刻みを施す縄文式土器である。他に黒曜石剥片、成川式土器片



44. 宮ノ後遺跡



45. 北の原遺跡



57. 上原遺跡



58. 荒瀬上原遺跡



59. 前床遺跡



60. 上大原遺跡



61. 船渡ノ上遺跡



62. 川添遺跡

なども採集した。縄文時代及び古墳時代の遺物の散布地である。

62. 川添遺跡 (図版 3)

川内川右岸に形成された標高約20mの三日月状の自然堤防上の畑地に位置し、その西側は川内川の蛇行による中州状の地形となっている。黒曜石チップ及び成川式土器片などを採集した。縄文時代及び古墳時代の遺物の散布地である。

63. 宮ヶ原遺跡 (図版 4)

川内川の支流大山川口の左岸の標高約40m、二渡の集落を見下ろす台地に位置する。東側には浅い谷を隔てて諏訪下遺跡が存在する。縄文時代及び古墳時代の遺物の散布地である。

64. 諏訪下遺跡 (第2図-70・図版4)

宮ヶ原遺跡の東側標高30mの丘陵地帯に位置し、現況は住宅と屋敷畑である。70の縄文式土器を採集した。縄文時代の遺物の散布地である。

65. 湯ノ原遺跡

標高約50mの山裾の傾斜地で、数点の土器片を採集した。摩滅が著しいため時期については定かでない。

66. 栗ノ脇遺跡 (第4図78、79)

川内川支流の泊野川の右岸、標高約80mの微高地に位置し、北西には周知の遺跡栗脇城を望む。78の黒曜石製石鏃、79のチャート製石鏃や縄文式土器片を採集した。縄文時代の遺物の散布地である。

67. 深田遺跡

湯ノ原遺跡と浅い谷を隔てた標高約45mの山裾の緩やかな傾斜地の畑地であり、南側は水田となる。成川式土器片を採集した。古墳時代の遺物の散布地である。

68. 菖蒲ヶ池

川内川支流海老川の左岸、標高約50mの微高地に位置し、現況は畑地である。調査可能な2筆の畑で成川式土器片を採集したが、西側の荒地へも遺跡の広がり及び可能性もある。古墳時代の遺物の散布地である。

69. 母ヶ野遺跡 (第4図-80)

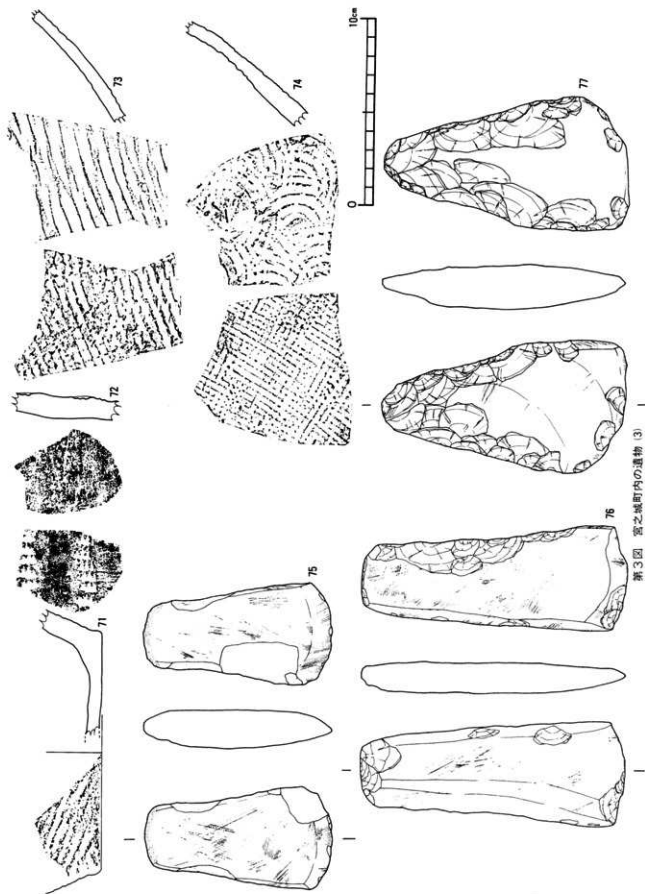
国道504号線の北側、標高約90mの微高地に位置する。黒曜石剥片、成川式土器片や弥生式土器片などを採集した。縄文時代・弥生時代及び古墳時代の遺物の散布地である。

70. 大岩ヶ谷遺跡

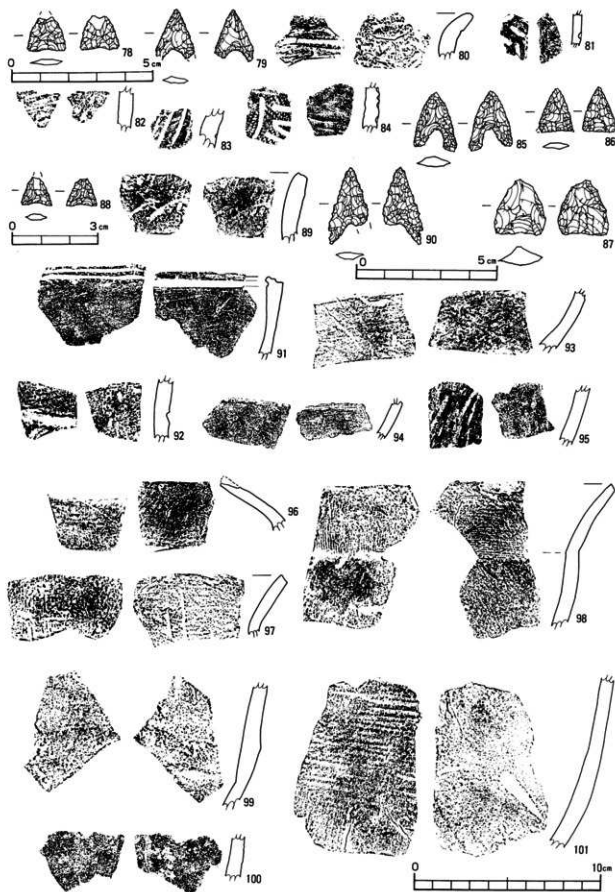
東郷町との町境に連なる標高400m級の山地の山裾に位置し、石鏃及び青磁片を採集した。山裾のため表土が薄く、包含層については疑問が残るものである。

71. 前田遺跡 (第3図-71~77)

泊野小学校周辺の標高約50mの比較的広い微高地に位置し、現況は学校敷地及び住宅と周辺の水田である。以前の出土遺物が小学校に保管しており、それを借用して資料化した。71・72は縄文時代早期の遺物で、71は外面に貝殻条痕を施す前平式土器、72は貝殻腹縁を用いて連続的な文様を施す塞ノ神式土器である。73は外面が格子、内面が平行の叩きであり、74は外面が格子、内面が同心円叩きの須恵器片である。75は両面をていねいに研磨した磨製石斧で、基部上端は敲打整形を行っ



第3回 宮之城町内の遺物(3)



第4図 宮之城町内の遺物 (4)

ており、肩部には着柄のためと思われる抉りが観察される。76も75と同様に両面からていねいな研磨が施される磨製石斧で、刃部には使用のためと思われる刃こぼれが観察される。77は刃部が斜めを呈する打製石斧で、刃部に若干の擦痕が観察される。

72. 前原遺跡

標高約120mの山裾の傾斜地であり、石鏃を採集したものの開墾が行われているため、包含層の残存については疑問が残るものである。

73. 北原遺跡（第4図-81～87・図版4）

鶴田町境の標高約100mの台地に位置し、町境は谷となりその比高差は約30mで、台地全面に遺物の散布がみられる。81～84は縄文時代の土器片で81・83はヘラによる施文、82は貝殻条痕が観察される。84は縄文時代後期の磨消縄文である。85・86は黒曜石製の石鏃である。縄文時代の遺物の遺物の散布地である。

74. 悪四郎原遺跡（第4図-88）

北原遺跡と同じ台地の南側縁部、標高約125mに位置し、国道328号線がその中央部をはしる。縄文式土器片及び88の透明度が高く小型の石鏃を採集した。縄文時代の遺物の散布地である。

75. 後川遺跡（第4図-89・図版）

宮之城の市街地を望む標高約45mの台地に位置する。黒曜石剥片・チップ及び89の成川式土器片を採集した。縄文時代及び古墳時代の遺物の散布地である。

76. 兎田遺跡（第4図-90）

後川遺跡の北に位置する標高約50mの台地西側縁部に位置する。気泡の少ない良質の黒曜石を用いた90の石鏃及び成川式土器片を採集した。縄文時代及び古墳時代の遺物の散布地である。

77. 原口遺跡

兎田遺跡と同様の台地の東側縁部、標高約55mに位置する。その範囲は国道328号線に沿うように南北に長くのびる。成川式土器片を採集した。古墳時代の遺物の散布地である。

78. 西ノ原遺跡（第4・5図-91～106）

本年度農業基盤整備事業に伴って発掘調査が実施され、多量の押型土器が出土した甫立原遺跡の南東、甫立集落のある標高約70m台地縁部に位置する。現況は住宅と畑でゴボウ・甘藷などが広く耕作されている。トレンチャーによる深耕のためか多量の遺物が散布していた。91～96は縄文時代の遺物である。91は口縁部内面に一条と口唇部に二条の沈線が施され、口唇部の沈線間にはわずかに縄文らしきものが観察されるもので後期の西平式土器である。93～96は晩期の土器で、93・93・96は内外面に研磨を施す浅鉢形土器、92・95は深鉢形土器の胴部である。97～105は古墳時代の成川式土器である。97・98は甕形土器の外反する口縁部で、98は頸部にハケによるかきあげが観察される。99～103は甕形土器あるいは壺形土器の胴部と考えられるもので、103は低いかまぼこ状の突帯を有する。なお、101は縄文時代晩期の深鉢形土器の可能性もある。104・105は高杯の脚部で、105には円形の透かしが施されている。106は黒曜石製の石鏃である。縄文時代及び古墳時代の遺物の散布地である。

79. 北園遺跡（第5図-107・108）

西ノ原遺跡と甫立集落をはさんで北側の標高約70mの台地縁部に位置する。貝殻腹縁で施文を施

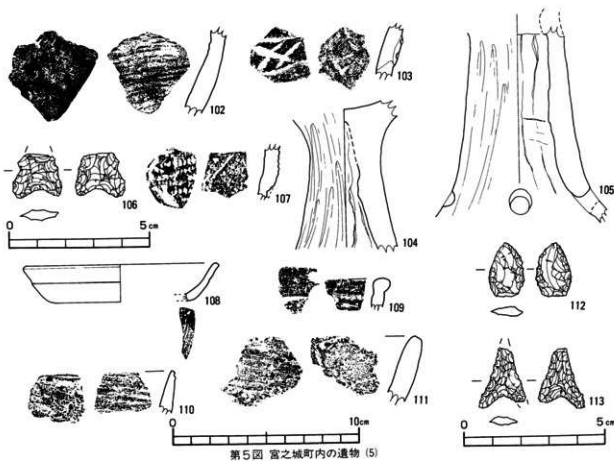
した107の土器と108の土師器の杯を採集した。縄文時代及び古代～中世の遺物の散布地である。

80. 大角原遺跡 (第5図-109～113)

原口遺跡と竹材加工センター・伝統工芸センターをはさんで北側の標高約70mの台地縁部に位置し、その中央を国道328号線が南北にはしる。109・111は縄文時代晩期の遺物で、109が浅鉢形土器、111が深鉢形土器の口縁部片である。110は成川式土器の口縁部片である。112・113は黒曜石製の石鏃で、112は未製品と考えられるものである。縄文時代及び古墳時代の遺物の散布地である。

81. 堂ノ前遺跡

原口遺跡と後川をはさんで東側の標高約55mの台地に位置する。周辺が桑畑や果樹園のため調査可能な畑一筆にて石鏃及び成川式土器片を採集した。遺跡の範囲はその周囲へも広がる可能性がある。縄文時代及び古墳時代の遺物の散布地である。





63. 宮ヶ原遺跡



64. 諏訪下遺跡



73. 北原遺跡



1. 北方遺跡



3. 堂地遺跡



4. 尾付野山遺跡

第2節 薩摩町

薩摩町の南北は山地で、中央部に穴川・北方川・南方川など東西方向に流れる河川により侵食された谷部と、シラス台地がある。耕地も山地帯の小さな深い谷部を除いて、中央部に開けている。遺跡はほとんどが、谷部を見下ろすシラス台地上にあり、中津川地区に集中して確認された。地層的には、山地帯では火山噴出物や腐食土層の堆積がほとんど見られず、赤土と礫が表出しているところが多かった。遺跡の残存状況もこうした地勢に影響されたものであると考えられる。

遺跡地名表 41 薩摩町

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	北方	北方	台地	縄文～古墳 中世	土器片, 黒曜石剥片, 石鏃, 青磁	
2	瀧脇	園田	台地	古墳	成川式土器片	
3	堂地	北方	台地	古墳	成川式土器片	
4	尾付野山	北方?	台地	縄文	土器片, 黒曜石剥片	
5	宮脇	尾原	台地	古墳	成川式土器片	
6	瓶山	永江	台地	縄文～古墳	土器片, 黒曜石剥片	
7	蛇穴	永江	台地	縄文～古墳	土器片, 黒曜石剥片	
8	鶴ヶ山		舌状台地	縄文	石鏃, 黒曜石剥片	
9	高取	別野	沖積台地	古墳～中世	土器片, 土師器片	
10	堂脇	弓之尾上	台地	弥生, 古墳	土器片	
11	竹笠	弓之尾上	尾根	縄文, 古墳	土器片	
12	向原	北方	台地	縄文～古墳	土器片, 黒曜石剥片	
13	坂ノ上	下中福良	斜面	古墳	成川式土器片	
14	中大師野A	々	尾根	古墳	成川式土器片	
15	中大師野B	下中福良, 黒鳥	尾根	古墳	成川式土器片	
16	桃木ヶ迫	小永田	斜面	古墳	成川式土器片	
17	仕明	北方	台地先端	縄文, 古墳	土器片, 黒曜石剥片	
18	別府原	下別府	台地	縄文, 古墳	土器片 押型文(山形)	別府原古墳と同一台地
19	前畑	築平	台地	古墳	成川式土器片	
20	石塚	下狩宿	尾根	古墳	成川式土器片	
21	前田	武	自然堤防	古墳	成川式土器片	
22	神前	武	台地先端	縄文	土器片, 黒曜石剥片	



第6図 薩摩町内の遺物 (I)

1. 北方 (第6図-114~119)

中津川の中心部をしめる台地で、東西に長く伸びる標高144~156mの台地である。広域にわたって遺物が散布し、特に北方古墳の南西側では、土器の大破片が散布していた。114は成川式土器の鉢形土器の口縁部の破片で、わずかにハケ目を残す。115は甕形土器の頸部突帯、116は鉢形土器の肩部である。いずれも古墳時代である。117は石鎌、118は石匙、119は磨製石斧の刃部である。このほかに弥生時代の土器片、青磁片などが採集され、縄文時代から中世にかけての遺跡である。

2. 瀧脇

中津川園田に属し、北方から続く台地の西端部にあたる標高142mの台地に位置する。成川式土

器の破片を採集した。古墳時代の遺跡である。

3. 堂地 (第6図-120)

北方町の東側の標高166mの台地である。120は成川式土器の壺形土器の突帯部分である。このほか成川式土器の土器片を多数採集した。古墳時代の遺跡である。

4. 尾付野山 (第6図-121・122)

堂地遺跡からさらに東側に谷を隔てて、山地帯から続く標高186mの傾斜面に位置する。北西側の一部で畑地整備事業が終了している。121は須恵器の破片である。122は黒曜石製の石鏃で、このほか剥片も採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

5. 宮脇

地下式板石積墓の尾原古墳群のある台地であるが、古墳群の南側の台地全体に、成川式土器の土器片が散布している。古墳時代の遺跡である。

6. 瓶山 (第6図-123)

南方川の右岸、永江集落の北東側の標高150m弱の台地の東側に位置する。成川式土器の土器片や縄文時代と判断される土器細片と黒曜石の剥片を採集した。123は黒曜石製の石鏃である。縄文時代から古墳時代にかけての遺跡である。

7. 蛇穴

瓶山遺跡と同一の台地の、東側145mの西半分の部分である。成川式土器の土器片や縄文時代と判断される土器細片と黒曜石の剥片を採集した。縄文時代から古墳時代にかけての遺跡である。

8. 鶴ヶ山 (第6図-124)

谷部の南方川によってつくられた沖積地に突き出した舌状の台地で、標高は115m、下の水田との比高差は2～3mである。124は黒曜石製の石鏃で、剥片も採集した。砂質土で沖積台地であろう。縄文時代の遺跡である。

9. 高取 (第6図-125-127)

南方川の左岸、別野の集落の東側に位置する、標高120m強の沖積台地と判断される。125は縄文時代晩期の研磨土器の口縁部で、126は口縁直下に刻目突帯を巡らせるもので、縄文時代晩期末の土器片である。127は内面がケズリで外面がハケ目調整されており、古墳時代のものである。成川式土器の土器片と土師器片を採集した。古墳時代から中世の遺跡である。

10. 堂脇 (第6図-128)

弓之尾下の集落内の一段高い南向きの標高140m弱の台地で、室町時代の古石塔があり、寺院跡として知られている。128は成川式土器の壺形土器の頸部突帯部分である。古墳時代と中世の遺跡である。

11. 竹笠 (第6図-129-131)

弓之尾城跡の北側の、南北に細長いシラス台地に位置する。両側が小谷で、標高140m強の北向きの傾斜をしている。129は沈線が浅く施される。130は、道路建設により削られた排土の中から採集したもので、短沈線が施される。131は条痕土器の破片で、いずれも縄文時代の土器である。このほか成川式土器の土器片も採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

12. 向原 (第6図-133)

北方台地の南側で、南北を小谷に挟まれ、堂地遺跡の位置する台地から南西方向に突き出した標高150m強の台地に立地する。133は高坏の脚部で、内側はヘラ状の工具で調整された後ナデられ、外側には朱が塗ってある。遺物は県道の西側の低い段の畑に大破片が散布しており、その上の広い畑地部分には、良好に遺跡が保存されている可能性が大きい。縄文時代から古墳時代の遺跡である。

13. 坂ノ上

民俗資料館等のある造成地から北西方向に、北へ向かってなだらかに傾斜する尾根があり、谷部は畑地整備事業がなされている。153m弱の山の北側傾斜面である。成川式土器の土器片と黒曜石の剥片を採集した。古墳時代と縄文時代の遺跡である。

14. 中大師野A

黒鳥地区の上の東西方向へ伸びる台地の一部で、北側から小谷が入り込み、その谷頭部分にあたる。標高135mで、道路を隔てて南側に広がる可能性がある。成川式土器の土器片を採集した。古墳時代の遺跡である。

15. 中大師野B

中大師野A遺跡と同様の立地の遺跡で、中大師野A遺跡の西側に隣接している。成川式土器の土器片を採集した。古墳時代の遺跡である。

16. 桃木ヶ迫

穴川の右岸の黒鳥の台地の中心部のもっともひろい部分は、すでに農地開発が済んだ畑地で、その地帯から一段下がって標高130m弱の台地の北西端に遺跡が立地する。成川式土器の土器片を採集した。古墳時代の遺跡である。

17. 仕明

穴川の谷を北に望む標高130m強の丘陵で、北方台地の末端であるが、小谷が入り込み、遺跡で囲んだ範囲で独立した丘陵である。縄文時代と古墳時代の土器片、黒曜石の剥片を採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

18. 別府原 (第6図-132)

別府原古墳群の一段下の、別府原古墳群を取り巻くようにある南側の標高160m前後の台地部分にあたる。立地から古墳時代の集落遺跡の存在が予測される所である。132は山形押型文土器の破片で、縄文時代早期のものである。このほかに成川式土器の破片や黒曜石の剥片を採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

19. 前畑

穴川の右岸の岩元集落の南側で、南向きに傾斜して行く標高200mの台地に位置する。成川式土器の土器片を採集した。古墳時代の遺跡である。

20. 石塚 (第6図-134)

下狩宿から国道におりる途中の標高240mの傾斜地で、東側に深い谷があり、その谷頭にあたる。134は条痕文土器の破片で、縄文時代のものであろう。このほか成川式土器の破片を数点採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

21. 前田

中津川の白猿に至る道の東側で、小河川に挟まれた標高約140mの自然堤防上に位置する。成川式土器の土器片を採集した。古墳時代の遺跡である。

22. 神前

前田遺跡からさらに白猿よりに一段上がった、標高160mの台地の端部に位置する。道路両側の舌状台地の付け根部分から東側は畑地整備事業が広範囲に終了している。縄文時代の土器片と黒曜石の剥片を採集した。縄文時代の遺跡である。

謝辞

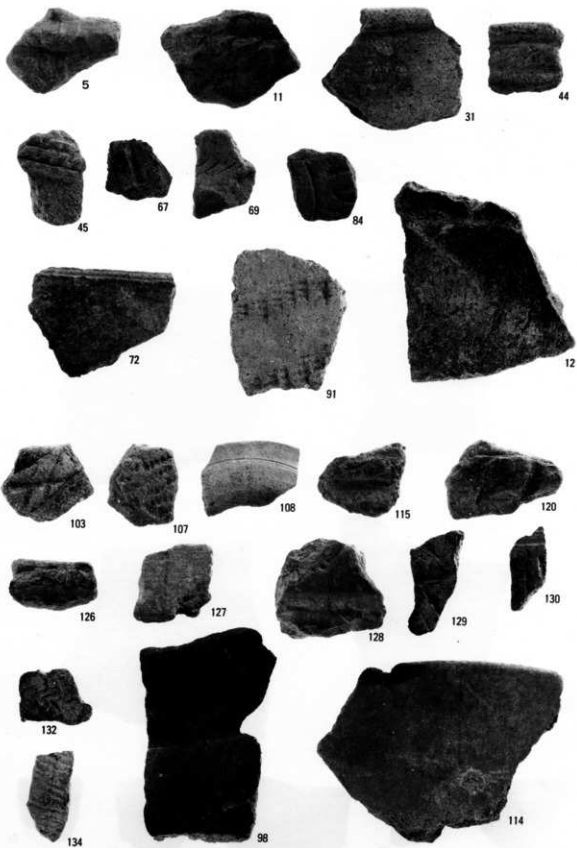
宮之城町教育委員会社会教育課及び薩摩町教育委員会社会教育課の皆様には、調査への同行・広報・情報提供や資料の提供などで、大変お世話になりました。字名調べでは、各町の税務課の地籍係の方々に御手数をかけました。遺物や図面の整理では作業員の方々の協力を得ました。ここに記して謝意を表します。敬称略

宮之城町教育委員会 塩入昭郎教育長、柿川行生社会教育課長、川添俊行社会教育課長補佐、井上和夫社会教育指導員、ほか課員の皆様。

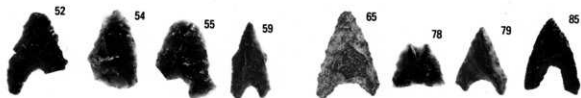
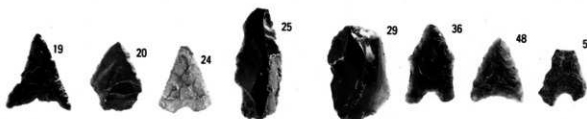
薩摩町教育委員会 東克巳教育長、東利昭社会教育課長、松下英夫社会教育指導員、ほか課員の皆様。

調査事務補助員 原田和子

整理作業員 前之園俊子・中名主和子・小山君子







鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(67)

北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅲ)

発行日 平成6年3月

発行者 鹿児島県教育委員会 〒892鹿児島市山下町14-50

印刷所 有限会社 トライ社

住 所 鹿児島市南林寺町12-6 ☎(0992)26-0815(代)